

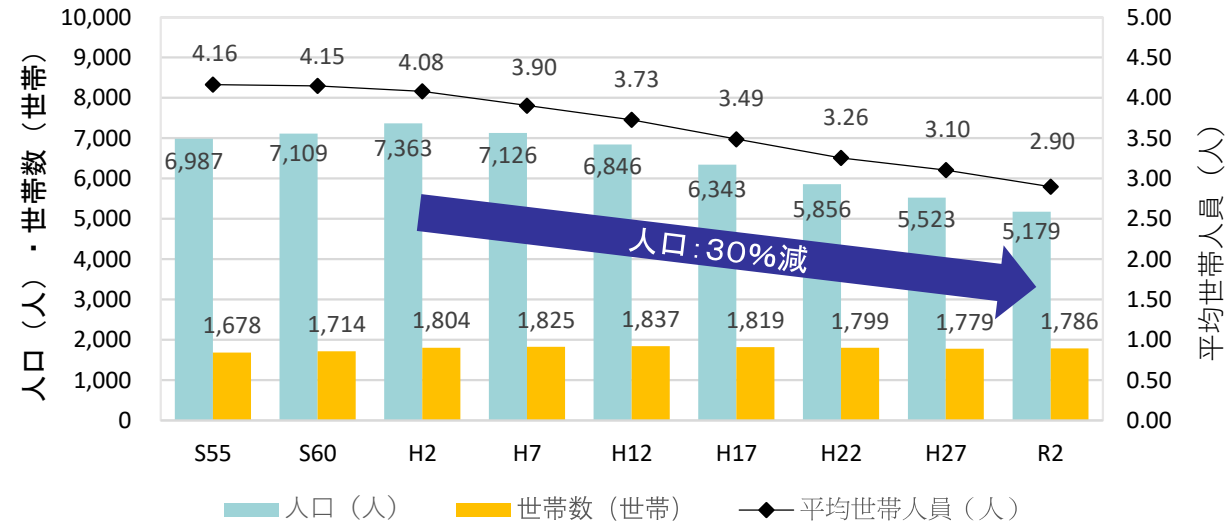
# 明日香村の現況について

---

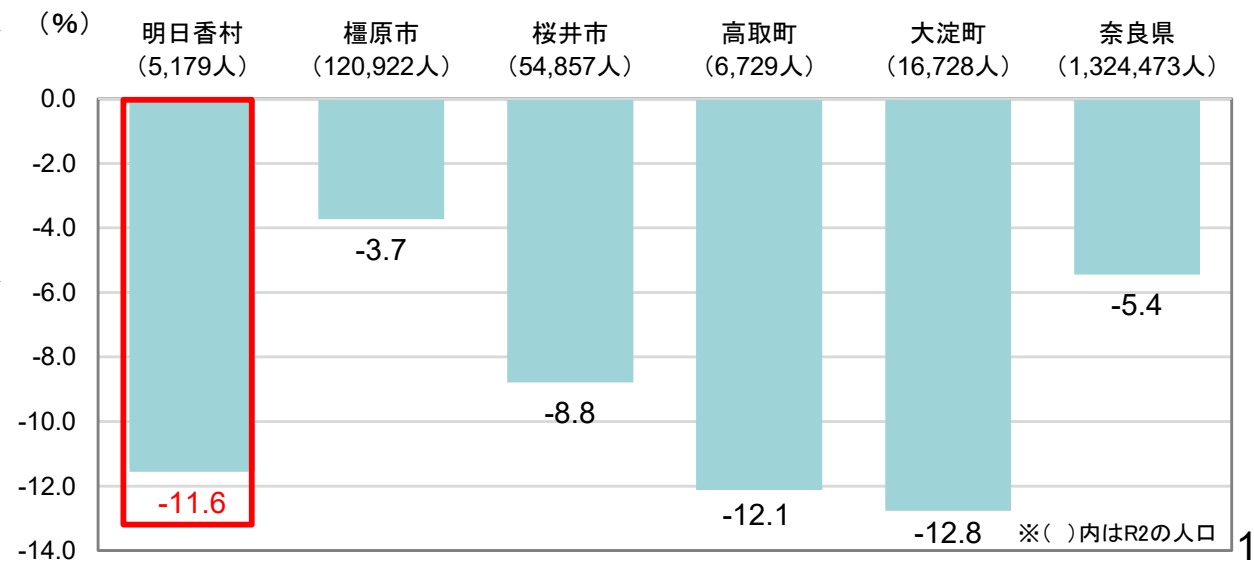
- ・平成2年以降人口減少が著しい。
- ・近隣自治体との比較では、人口減少率の割合が高い分類に入る。
- ・平成29年4月には、過疎地域に指定されている。

- ・人口は、平成2年以降、年々減少し、令和2年人口は、平成2年比で-30%弱まで減少した。
- ・人口減少が進む一方で、世帯数の減少はあまり見られず、核家族化が進行している。
- ・近隣自治体との人口減少率を比較すると、-11.6%（平成22年～令和2年）と人口減少率が高い分類に入る。
- ・平成29年4月には過疎地域に指定されている（人口減少率が同程度である大淀町、高取町については、現時点においては過疎地域に指定されていない）。

### 人口・世帯数・平均世帯人員の推移



### 近隣自治体との人口減少率の比較(平成22年～令和2年)

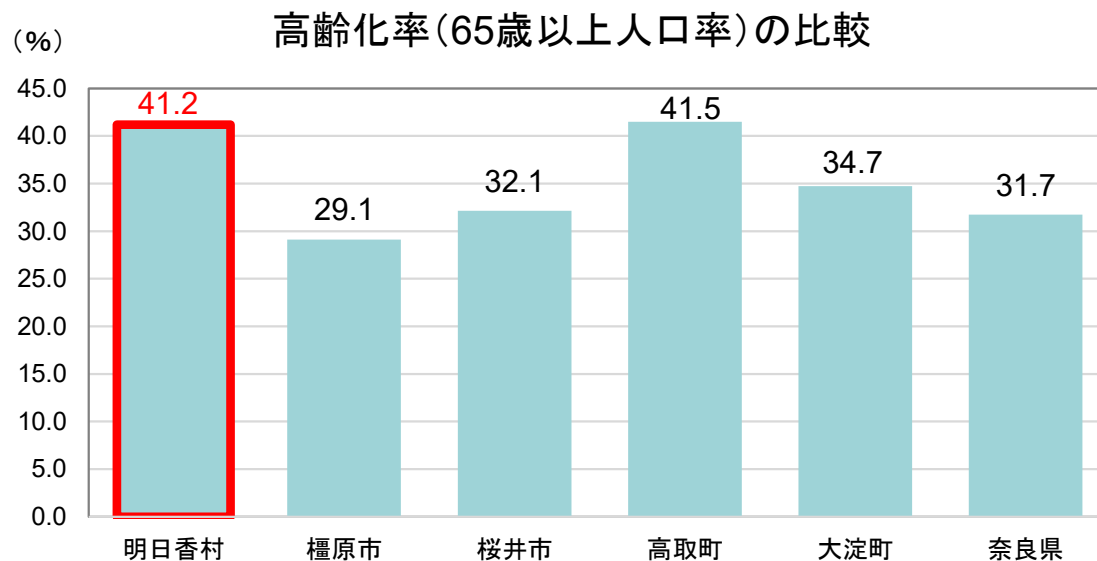
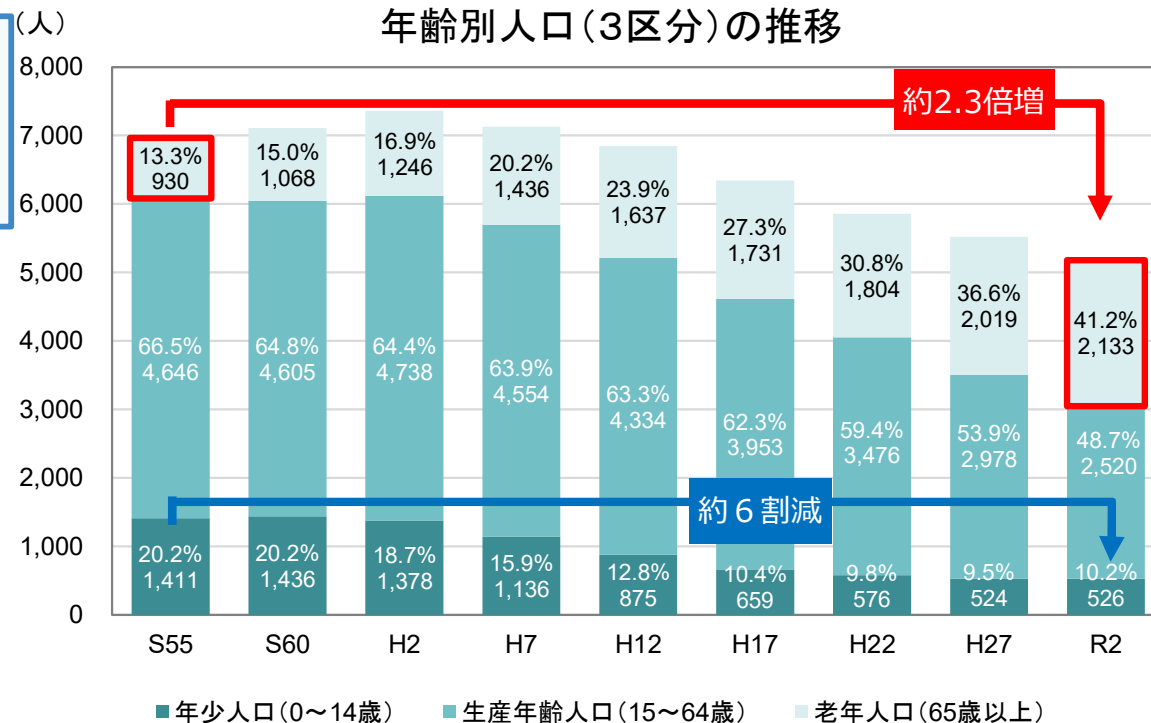


# 年齢別人口

昭和55年以降、少子高齢化が加速度的に進行

- ・ 65歳以上：昭和55年 → R2年 約 2.3倍増
- ・ 15歳未満：昭和55年 → R2年 約 6割減

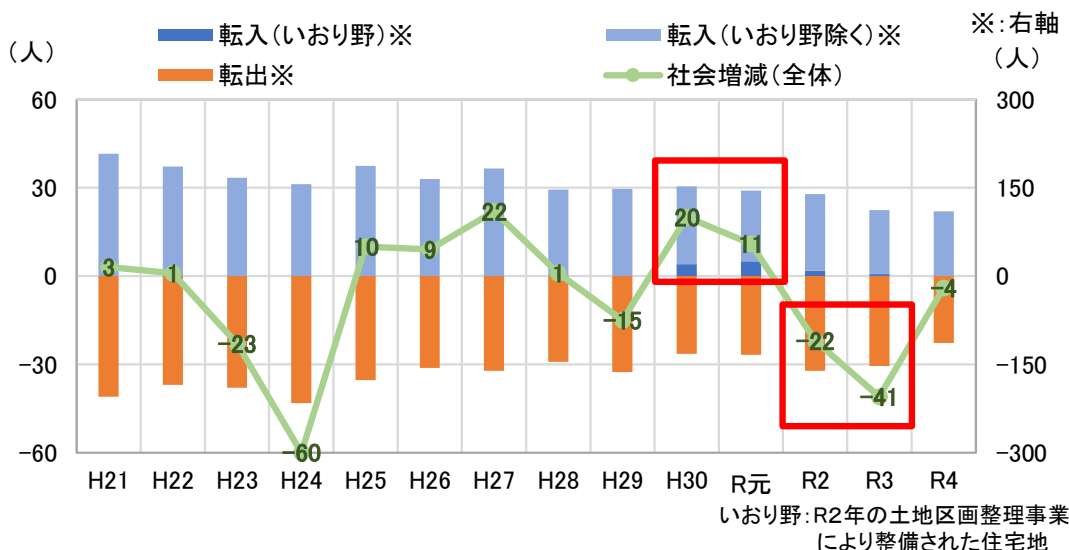
- ・ 明日香法制定時（昭和55年）以降、高齢化率（65歳以上人口率）が増加しており、高齢化が着実に進行している。
- ・ その一方で、S55年以降、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）が減少している。（但し、H27年からR2年にかけては、若干名の増加がみられる）。
- ・ 明日香村の高齢化率は、近隣自治体と比較しても、41.2%と非常に高い割合となっている。



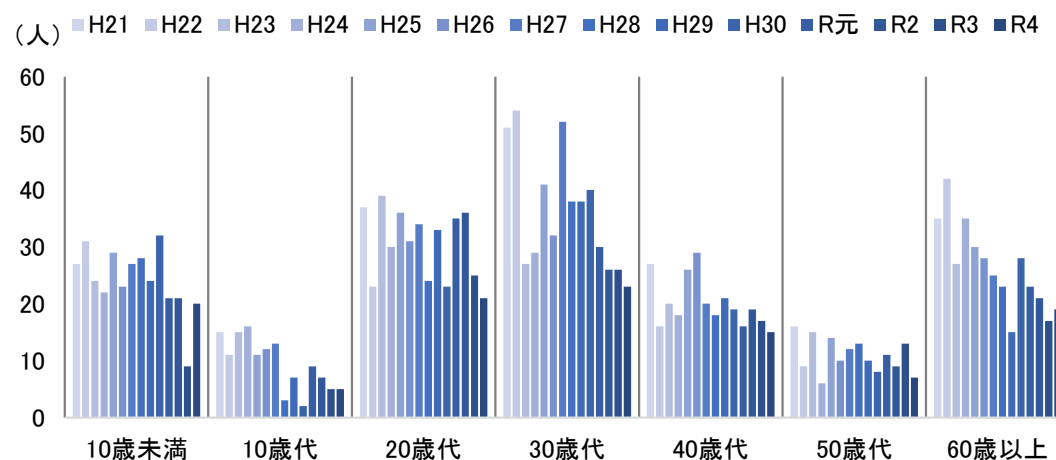
# 人口動態

- ・ 全体の社会増減では、いおり野地区の影響もありH30年～R元年は増加であったが、R2年以降は減少傾向である。
- ・ 年齢別の社会増減を見ると、20歳代は社会減の状態が続いている。一方、40歳代の親世代と10歳未満の子どもは社会増の状態である。

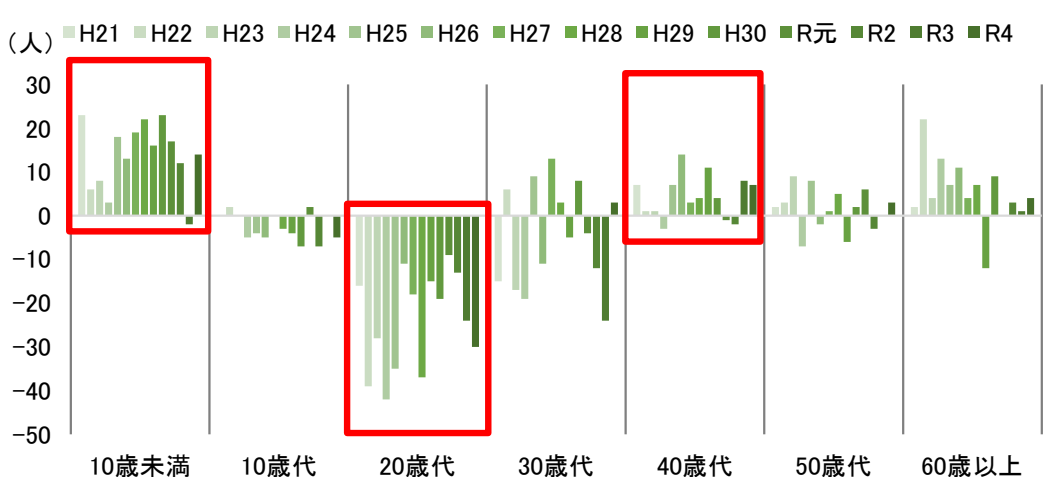
### 社会増減及び転入・転出の推移



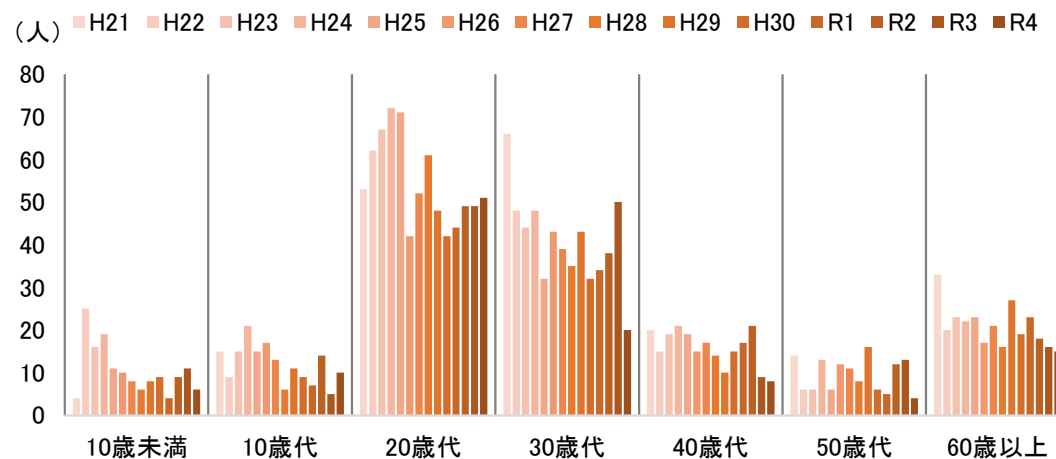
### 年齢別の転入の推移



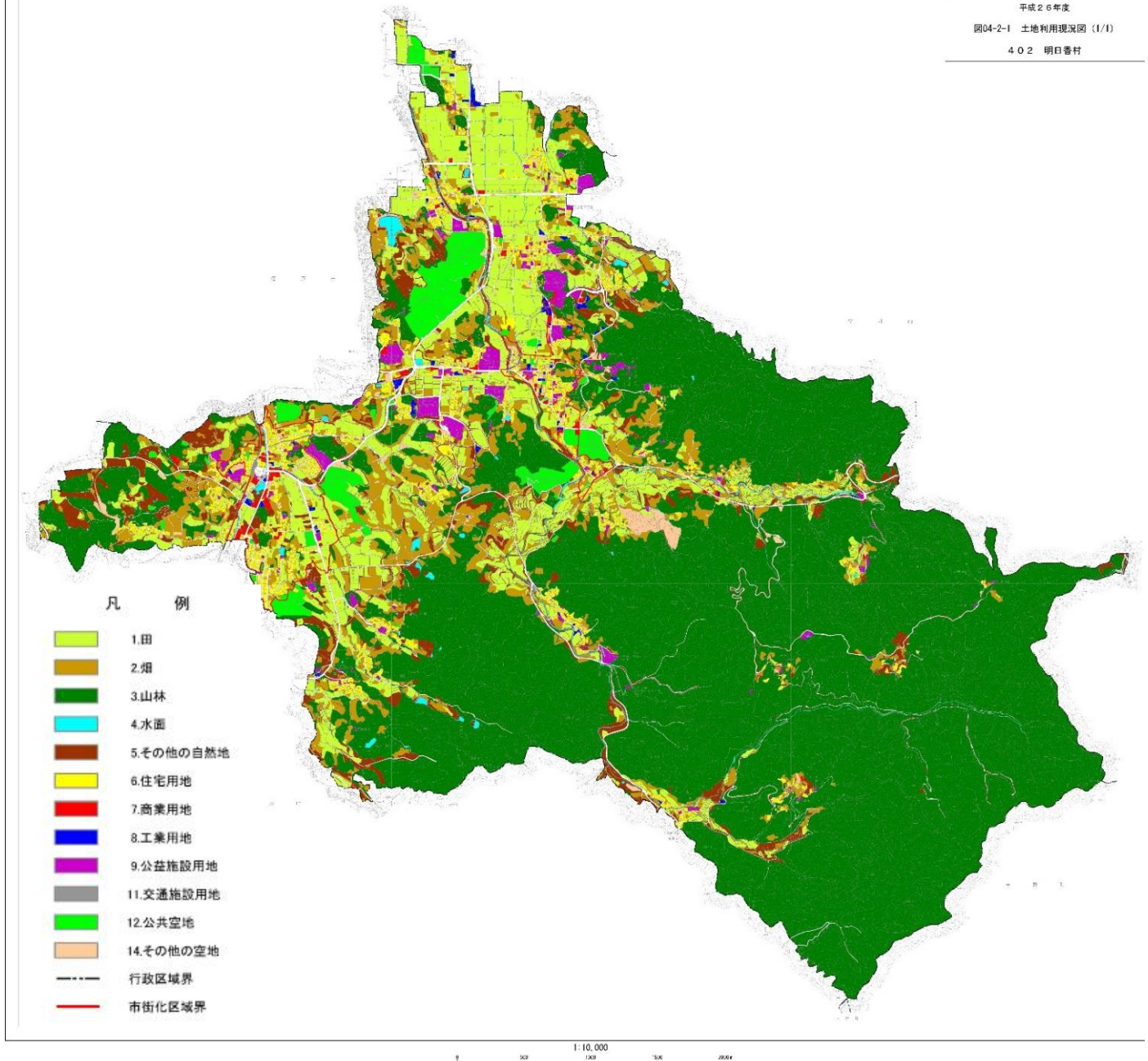
### 年齢別の社会増減の推移



### 年齢別の転出の推移



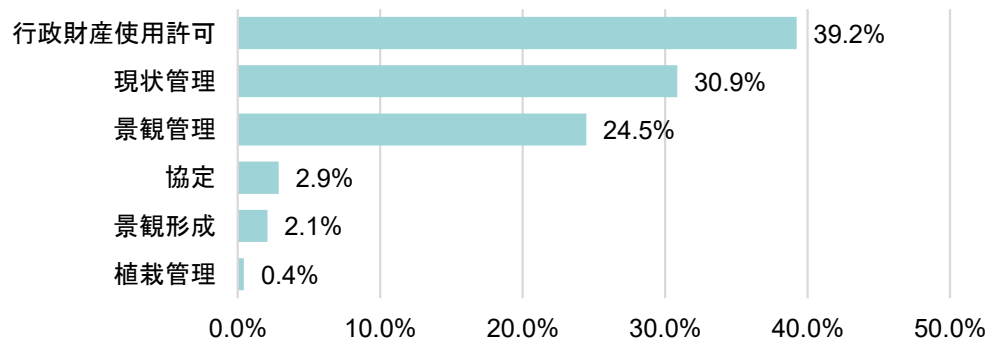
- ・ 村内の8割は農地及び山林で占められており、田は北部にまとまって分布するほか、西部や北東部の丘陵地や東部の山地において、傾斜地を活用した棚田が分布している。
- ・ 宅地は近鉄飛鳥駅周辺及び岡周辺において市街地を形成し、その他は集落形態で分布している。





- ・ 古都保存法による買入れ地は、現在約75ha以上に達している。
- ・ 古都法買入れ地面積は依然として増加し、広範囲に点在していること等が維持管理を困難にしている。

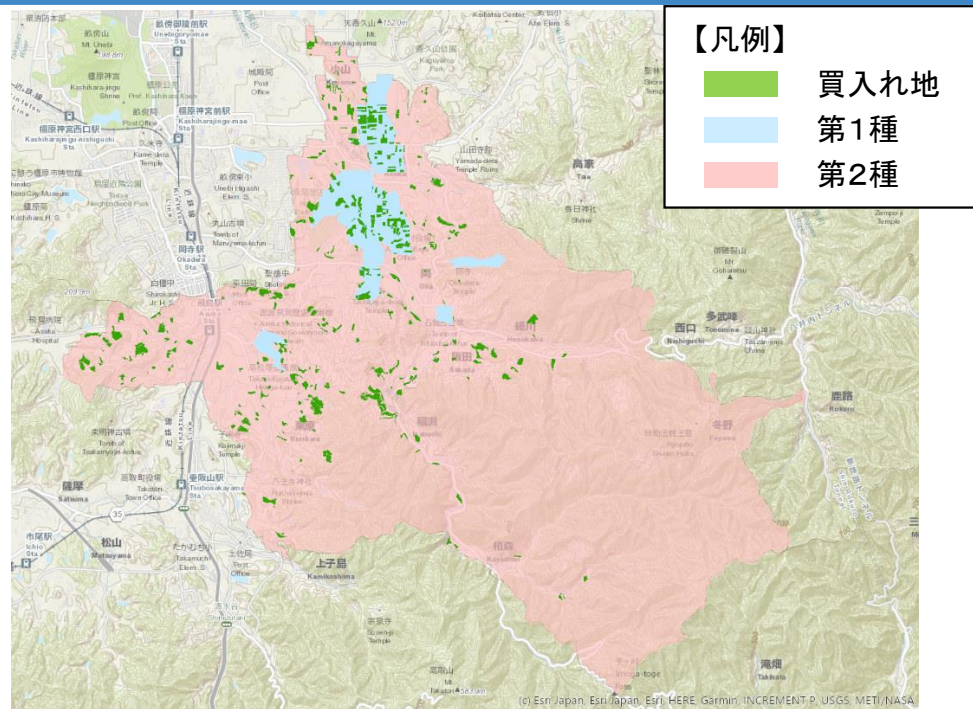
## 買入れ地の管理形態 (R5.3.31 現在)



出典: 明日香村調べ

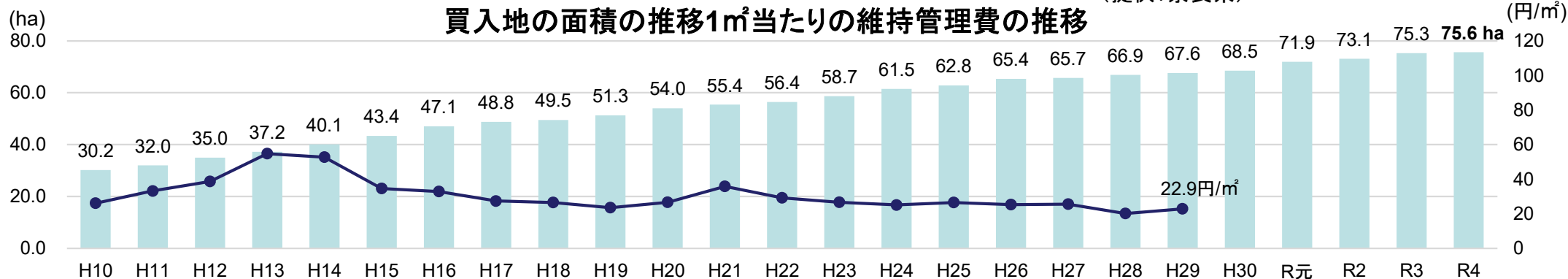
### 【凡例】

- ・ 行政財産使用: 「県から村などに貸出(実際は村がとりまとめ、地元住民に耕作等を行ってもらう)」による管理
- ・ 現状管理: 特に管理は実施していない(山林等)
- ・ 景観管理: 「除草」等による管理
- ・ 景観形成: 「ボランティア団体等による景観づくり」による管理
- ・ 協定: 県と明日香村が管理協定を締結し、明日香村が管理(明日香村近隣公園等)
- ・ 植栽管理: 花園づくり事業により整備した土地の植栽を維持管理



奈良県明日香村における買入れ地の分布状況(令和4年度末時点)  
(提供: 奈良県)

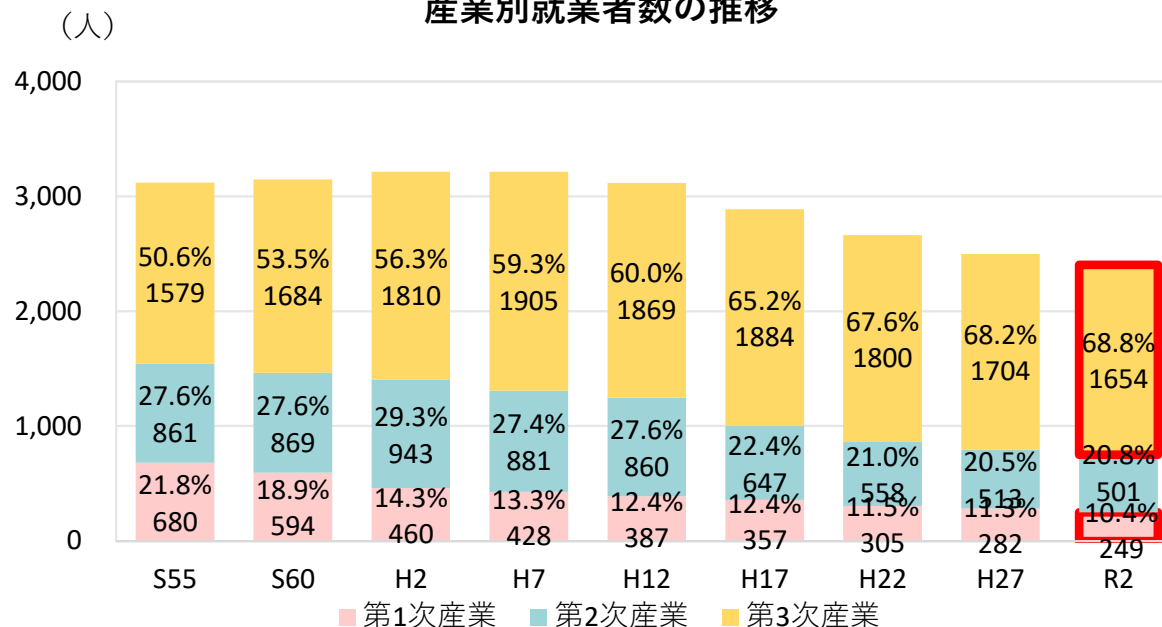
## 買入れ地の面積の推移 1㎡当たりの維持管理費の推移



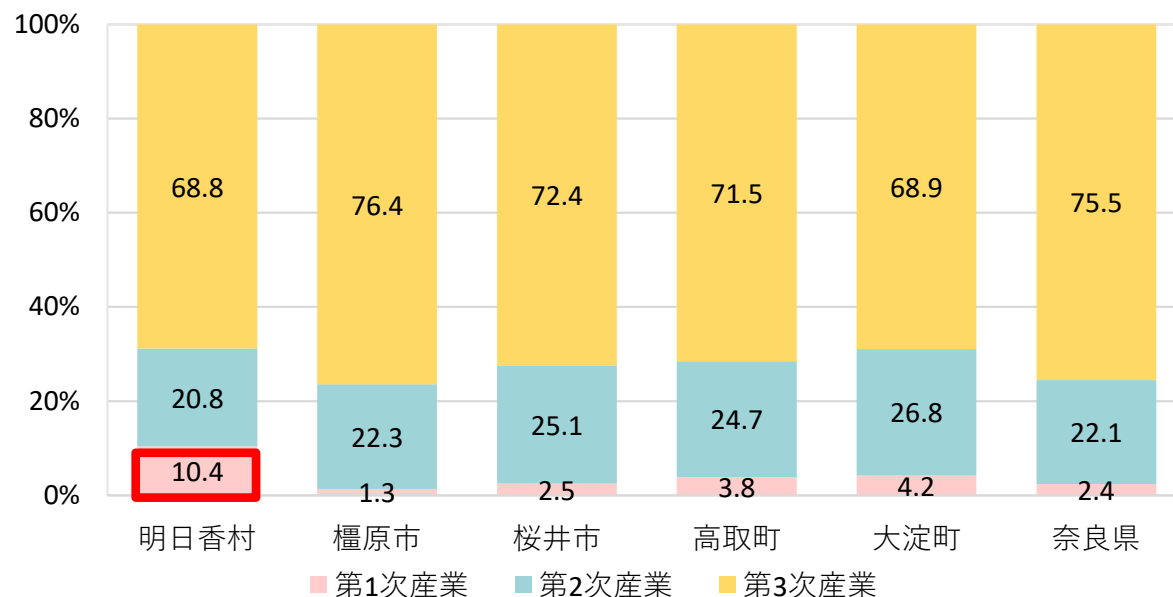
出典: 明日香村調べ 5

- 第1次産業就業者数は減少傾向にあり、明日香法制定時（昭和55年）と比較すると実数、割合ともに半数以下となっているが、近隣自治体に比べ、割合が高い。
- 第1次産業の減少とは反対に、第3次産業就業者数の占める割合は増加している。

### 産業別就業者数の推移



### 近隣自治体との産業別就業者数構成比の比較



# 就業状況

- ・ 村民の約60%が村外で従業しており、特に橿原市への通勤が最も多く、次いで大阪市が多い。
- ・ 村内で働く村外常住者も橿原市民が最も多い。

## ①明日香村民：村外で就業

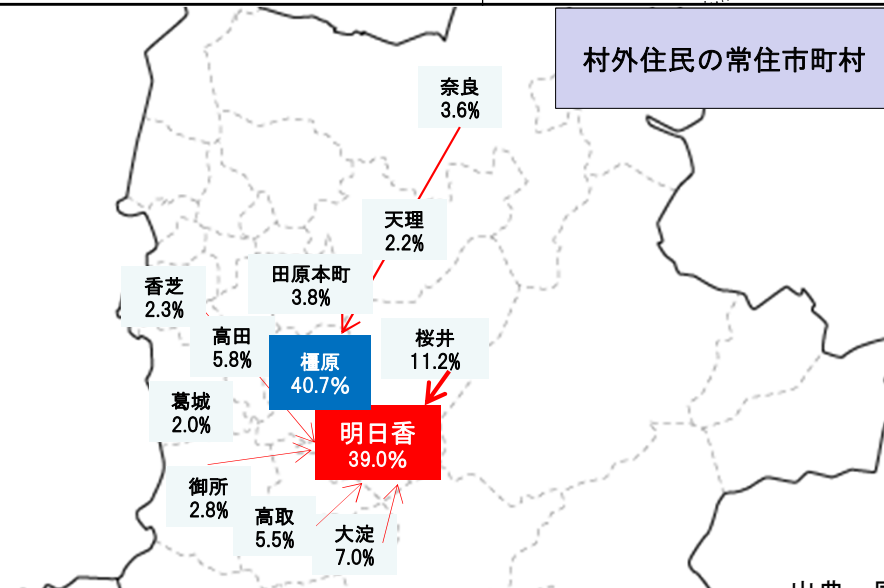
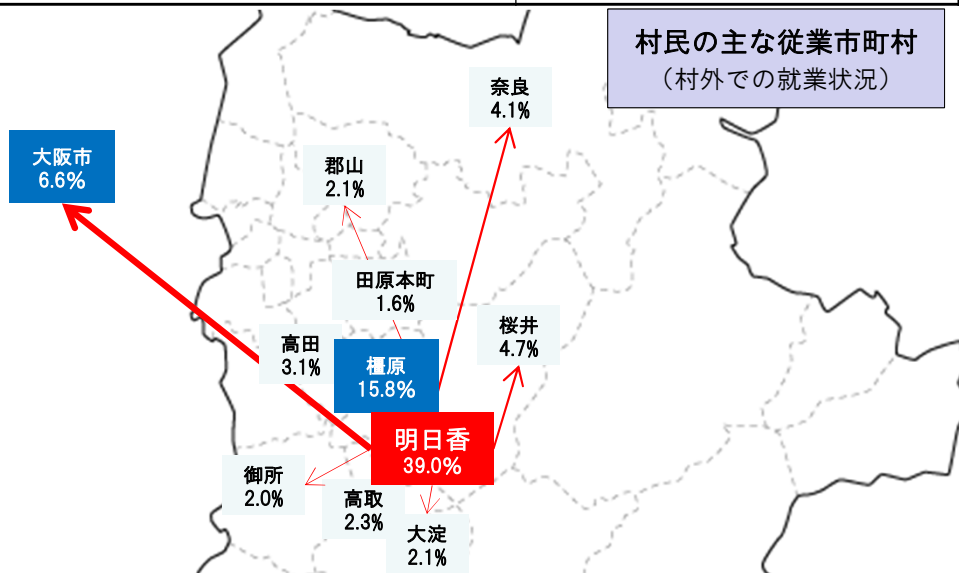
15歳以上の就業者の従業先市町村（上位10市町村）

従業地	(人)	(%)
①橿原市	378	15.8
②大阪市	157	6.6
③桜井市	112	4.7
④奈良市	99	4.1
⑤大和高田市	74	3.1
⑥高取町	55	2.3
⑦大淀町	50	2.1
⑧大和郡山市	49	2.1
⑨御所市	47	2.0
⑩田原本町	39	1.6
<b>就業者数計</b>	<b>2,389</b>	
うち村内で就業	931	39.0

## ②村外常住者：明日香村で就業

15歳以上の就業者の常住市町村（上位10市町村）

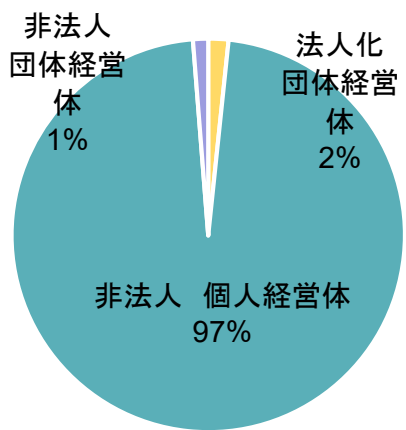
常住地	(人)	(%)
①橿原市	400	40.7
②桜井市	110	11.2
③大淀町	69	7.0
④大和高田市	57	5.8
⑤高取町	54	5.5
⑥田原本町	37	3.8
⑦奈良市	35	3.6
⑧御所市	28	2.8
⑨天理市	22	2.2
⑩葛城市	20	2.0
<b>就業者数計（転入）</b>	<b>983</b>	



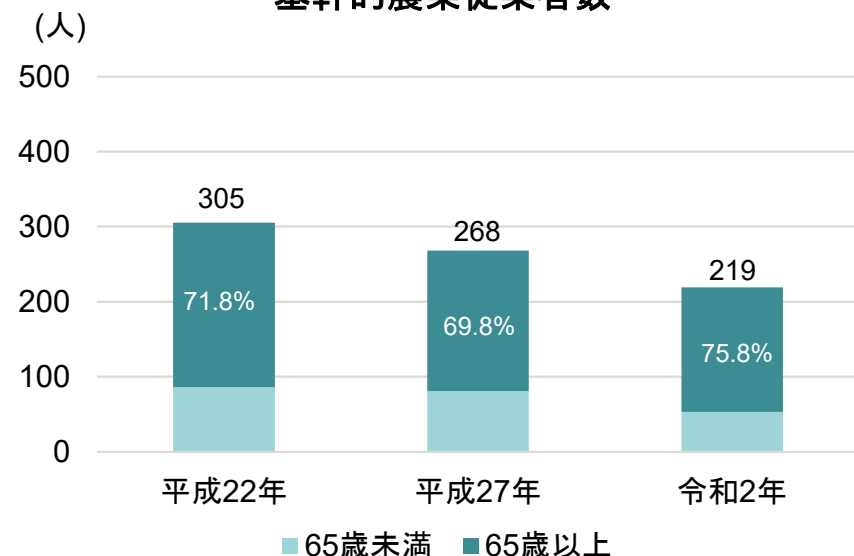


- ・ 農業は組織体系として、非法人が多く、かつ従業者数が減少するとともに、そのうちの約7.5割が65歳以上と高齢化が進んでいる。
- ・ 農業所得を主とする主業農家は、全体の1.5割以下となっている。

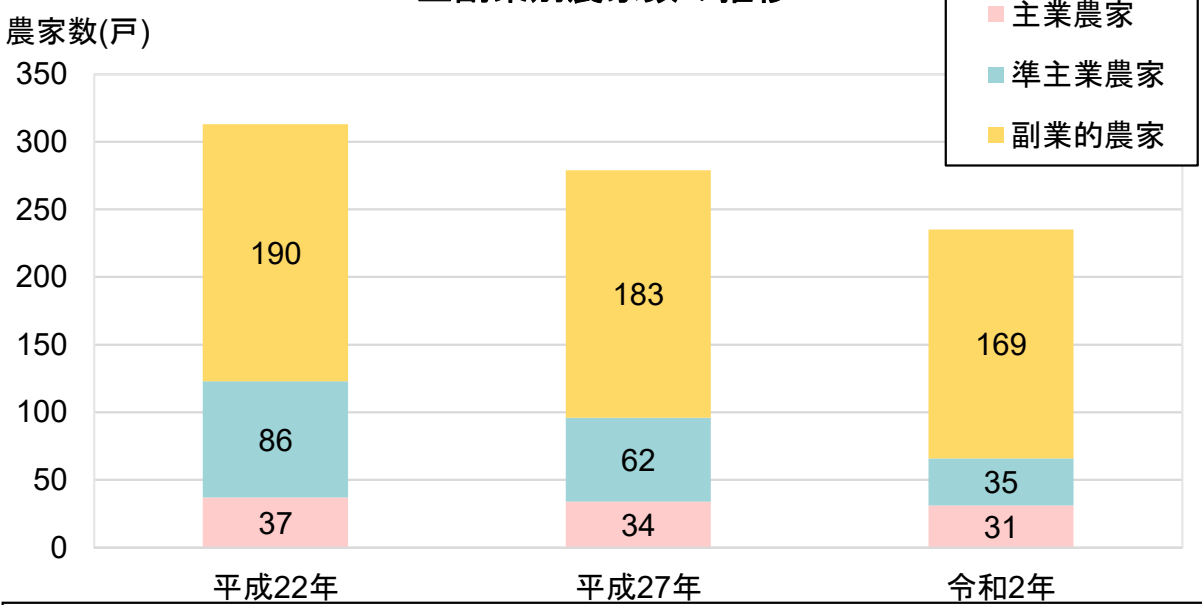
組織形態別経営体数割合



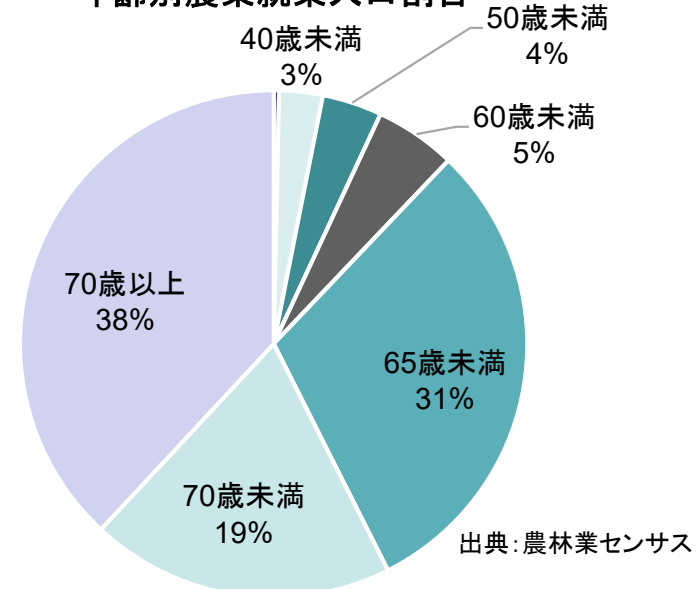
基幹的農業従業者数



主副業別農家数の推移



年齢別農業就業人口割合



主業農家: 農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、65歳未満の自営農業従事60日以上の方がいる農家  
 準主業農家: 農外所得が主で、65歳未満の自営農業従事60日以上の方がいる農家  
 副業的農家: 65歳未満の自営農業従事60日以上の方がいない農家。(調査期日前1年間に農産物の販売を行わなかった農家を含む。)

出典: 農林業センサス

- ・ 新規就農者や村内の後継者については、特に直近数年間で増加傾向となっている。
- ・ 農業生産販売額はH26年増減を繰り返しているが、どの時点も直売所の売上が全体の約半数を占めている。

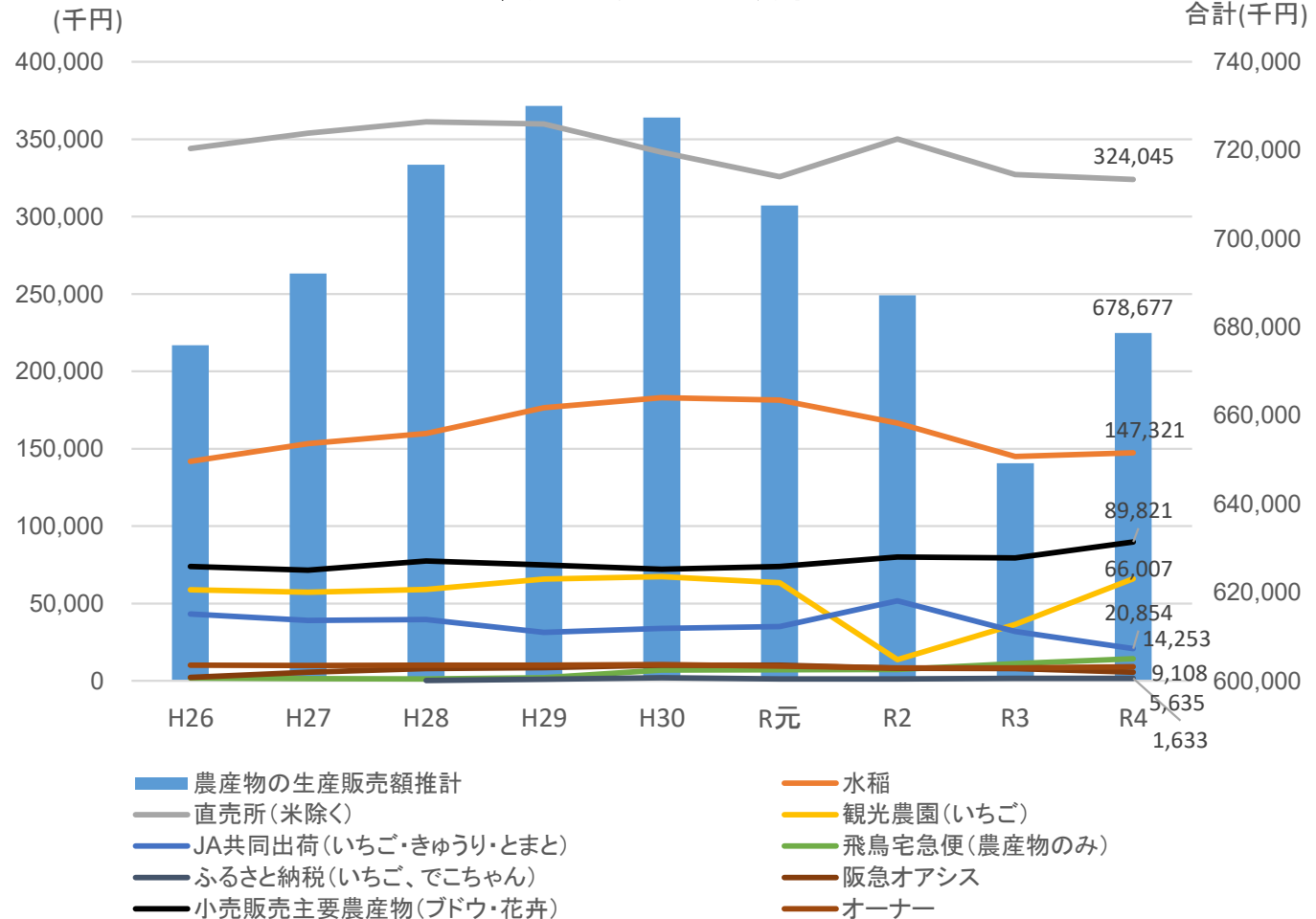
## <近年の新規就農者>

就農年	栽培品目	面積
H25	米、きくいも、パクチー等	73a
H25	じゃがいも、ピーマン等	80a
H26	いちご、しょうが、とまと等	38a
H26	ぶどう	43a
H28	いちご	31a
H29	アスパラ、ツルムラサキ等	37a
R元	苺	14a
R3	苺	10a
R3	苺	13a

## <近年の村内農業後継者>

就農年	栽培品目	面積
H16	花	114a
H31	水稲、柑橘、柿、梅	270a
R2	苺	25a
R2	水稲、ブドウ	120a
R5	水稲、花き	437a

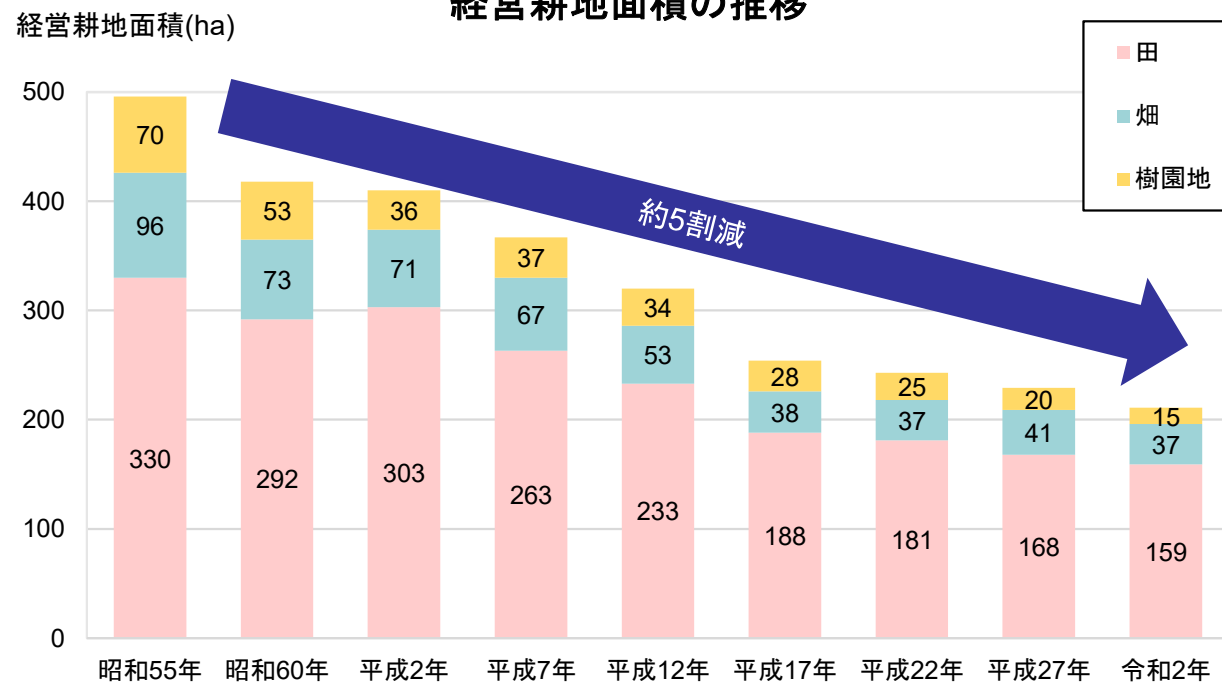
## 農業生産販売額推計



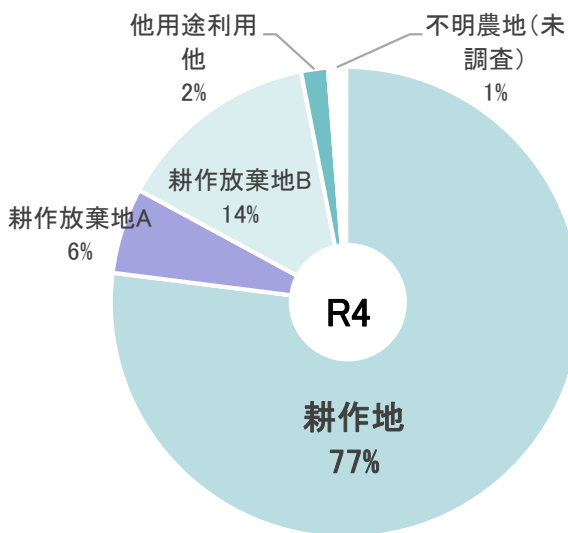
# 農業(耕作放棄地)

- ・ 経営耕地面積は年々減少  
(S55 : 496ha R2 : 211ha 約57%減)
- ・ このため、農地に占める遊休地・耕作放棄地の割合が年々増加し、現在約2割を占めており、田園景観・里山景観への影響が懸念される。

経営耕地面積の推移



農地の活用状況



- 耕作地：耕作されている又は年1回以上草刈り、耕起等の保安全管理が行われている農地
- 耕作放棄地A：1年以上耕作されず、今後も耕作予定のない農地
- 耕作放棄地B：森林、原野化し、農地として利用できない農地
- 多用途利用地：道路、建築物等が設置され、多用途に利用されている

出典：R4年度明日香村農業委員会調べ

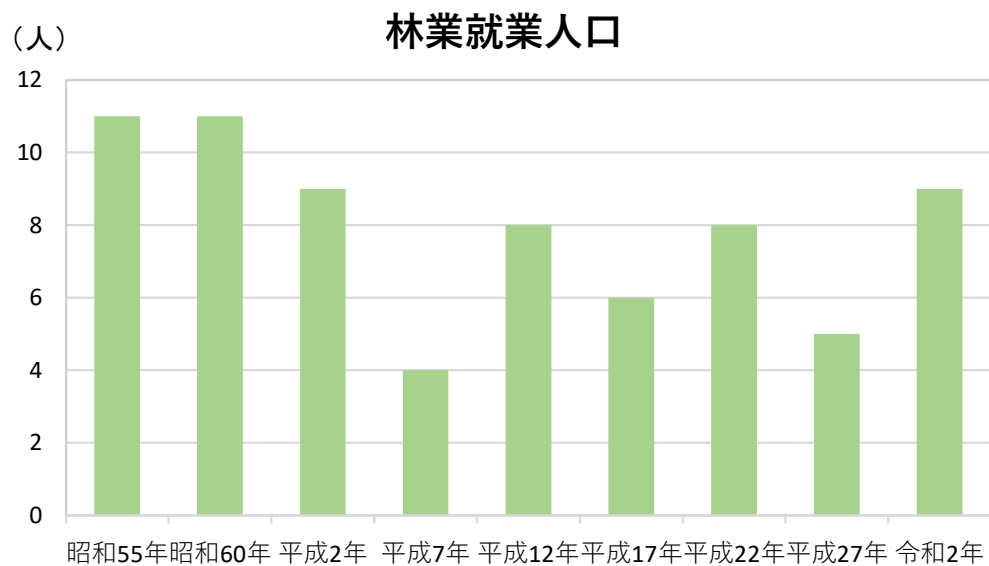


平地水田における耕作放棄地の点在



棚田・山裾部における耕作放棄地の拡大

- ・ 村内の林業就業人口は非常に少なく、林業就業者の確保が課題。
- ・ 森林の93%を針葉樹人工林が占めているほか、村内における竹林の拡大等が目立つ。

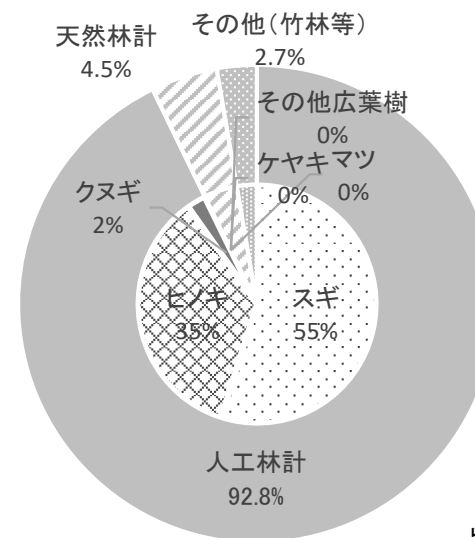


出典: 農林業センサス

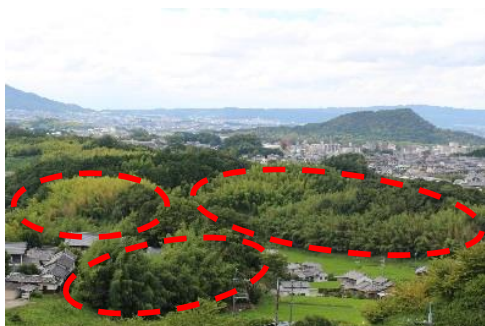
### 【明日香村森林組合の従業員数 (R5. 7時点)】

- ・ 職員 3名
- ・ 作業員 12名

### 【森林の樹種構成 (R2時点)】



出典: 明日香村調べ



竹林の拡大

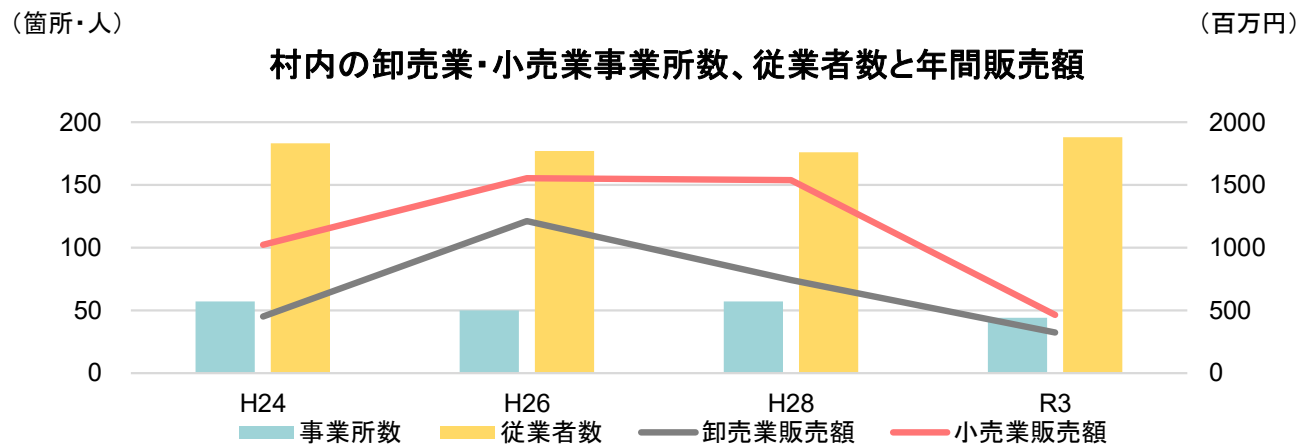


森林組合による樹林地管理

# 商工業(卸売業・小売業、製造業)

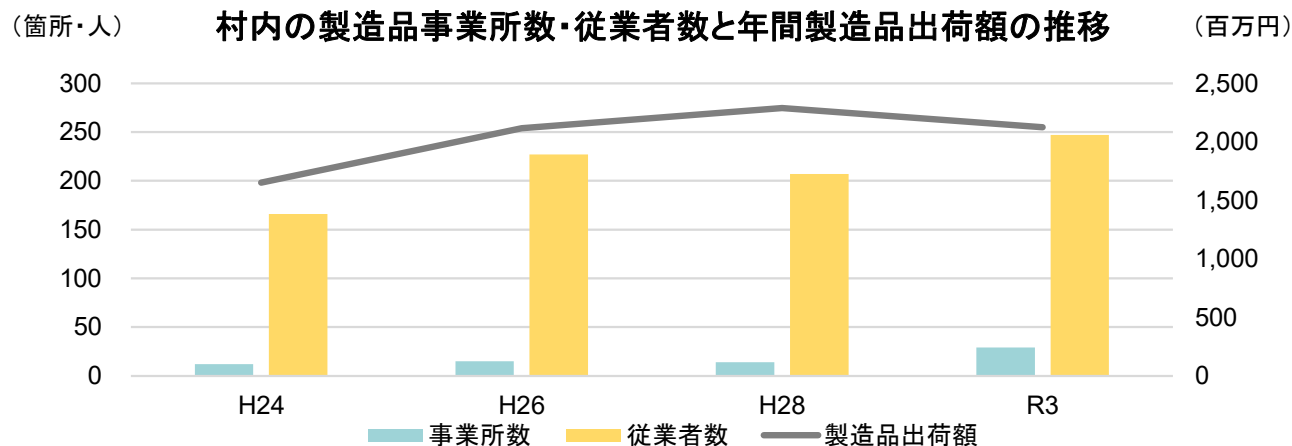
## 1. 卸売業・小売業

事業所数、従業者数共に横ばい傾向だが、年間販売額は近年減少傾向にある。



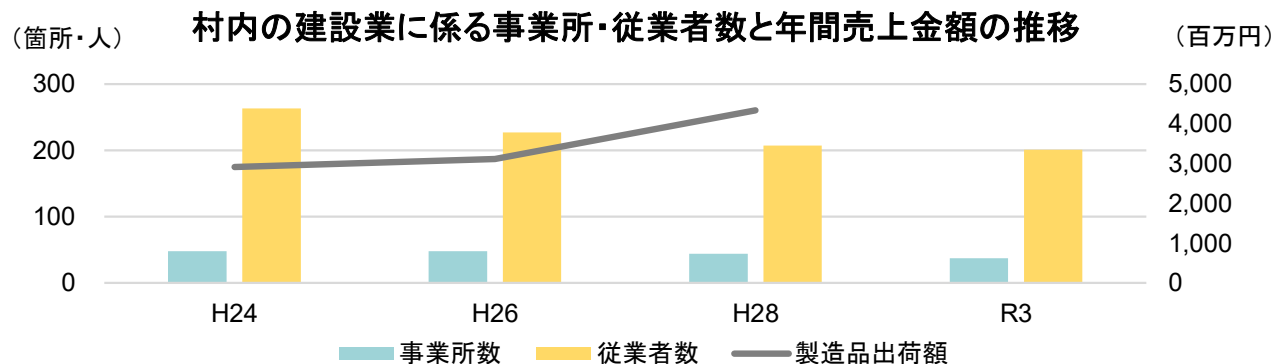
## 2. 製造業

事業所数、従業者ともに横ばい傾向だが、令和3年は若干の増加がみられる。



## 3. 建設業

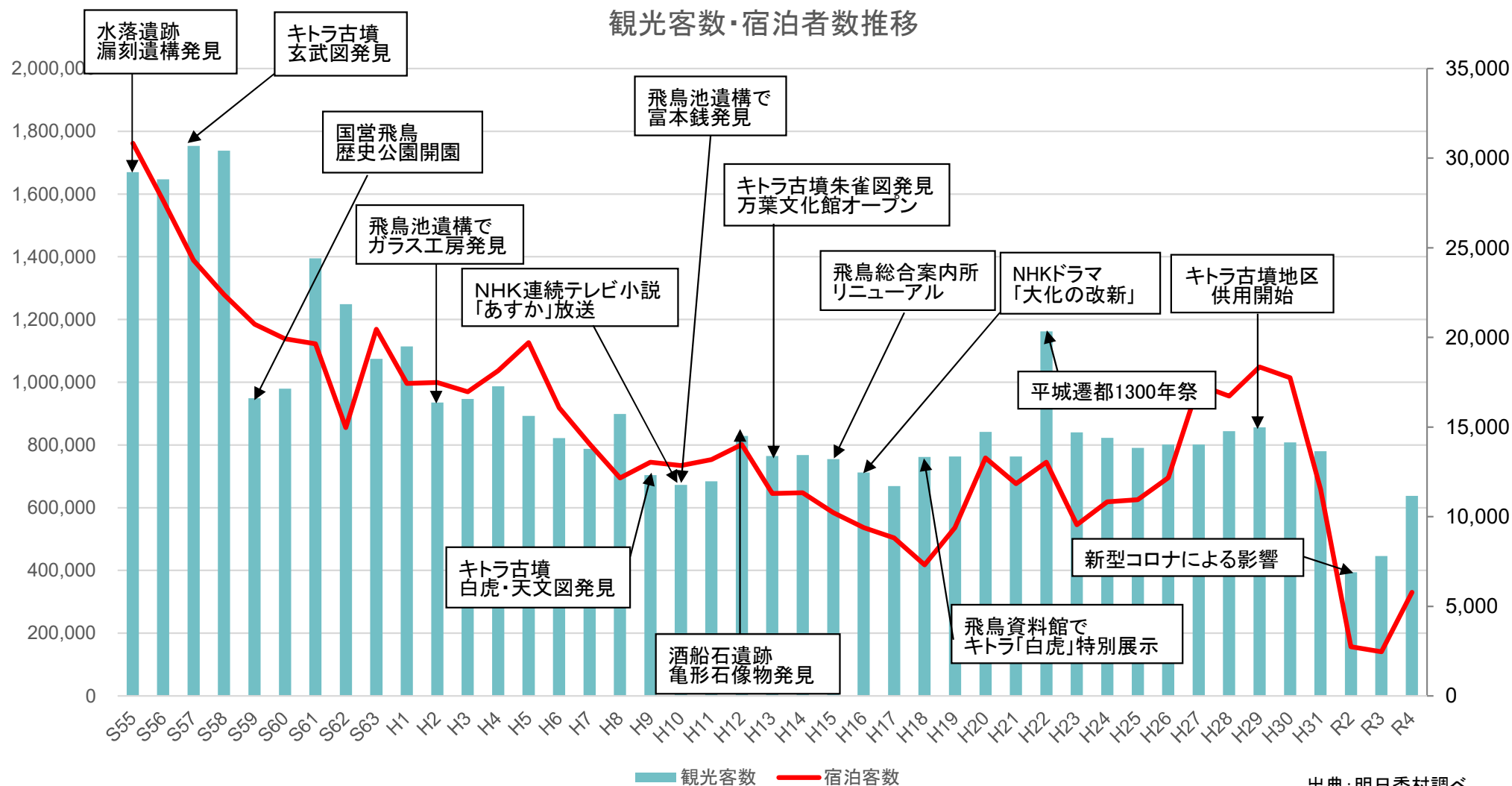
従業者数・事業者数共に横ばい傾向である。





# 観光【観光入込客数の推移】

明日香村を訪れる観光客数は、高松塚古墳壁画が発見された後、いわゆる飛鳥ブームとなった昭和50年代のピーク時には年間約180万人を越えていた。その後、国営飛鳥歴史公園の開園、飛鳥池遺構の工房の発見、キトラ古墳の壁画発見、酒船石遺跡の亀形石造物の発見などの直後は観光客数が増加。近年では平城遷都1300年祭で120万人に迫る勢いを見せた。新型コロナ前は約80万人前後で推移していたが、新型コロナ後の令和4年は60万人前後である。

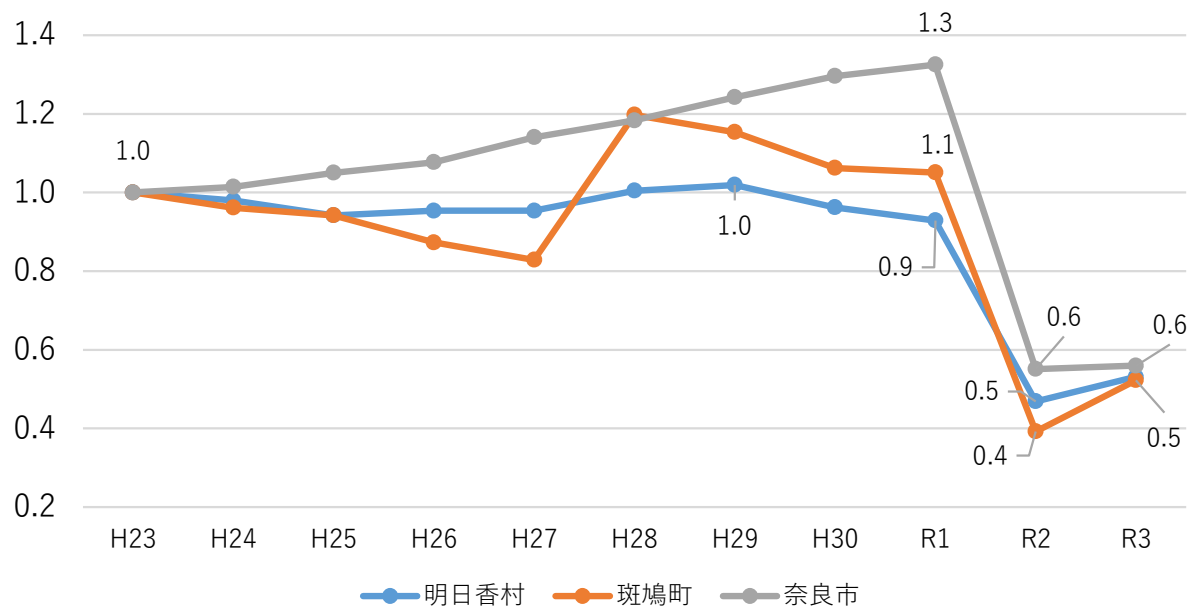


# 観光【観光入込客数の推移】

- ・ 県内の市町村と比較すると、明日香村では平成29年がピーク、斑鳩町では平成28年がピークとなり減少傾向だったところにコロナ禍に見舞われている。一方、奈良市は令和1年まで増加を続けており、その後コロナ禍に見舞われている。今後、コロナによる影響からの立ち直りに向けた対応や取り組みが求められる。
- ・ 明日香村内の観光施設のうち、「石舞台古墳」に観光客全体の約28%が訪れているとともに、平成28年9月に開園したキトラ地区の「四神の館」は年間12万人以上の集客があり、主要な観光施設として活用されている。

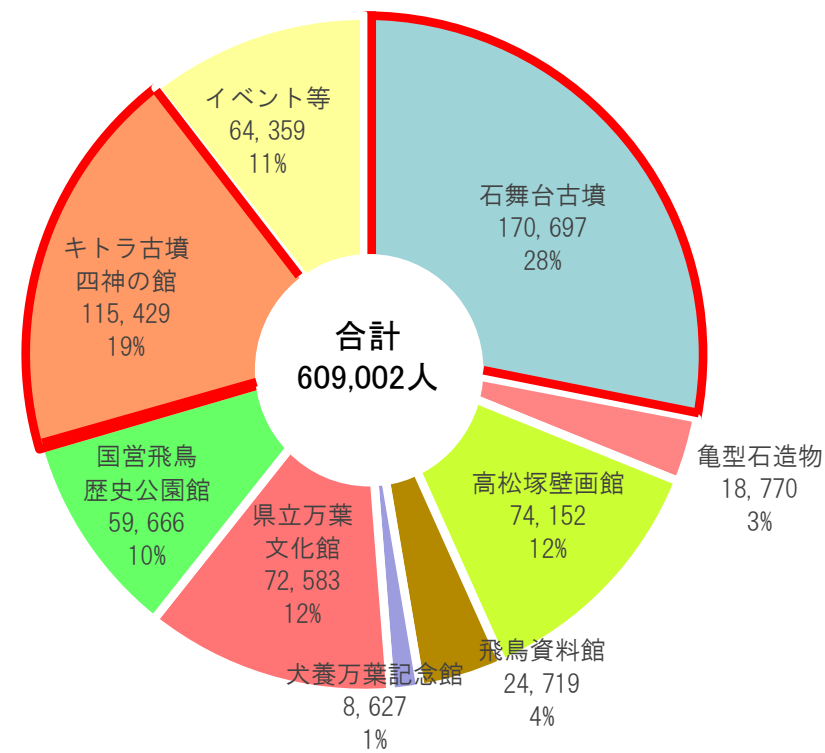
### 観光入込客数の変化率の比較

(平成23年を1.0とする)



出典：明日香村、斑鳩町、奈良市調べ

### 明日香村の観光施設等入場者数(R4実績)



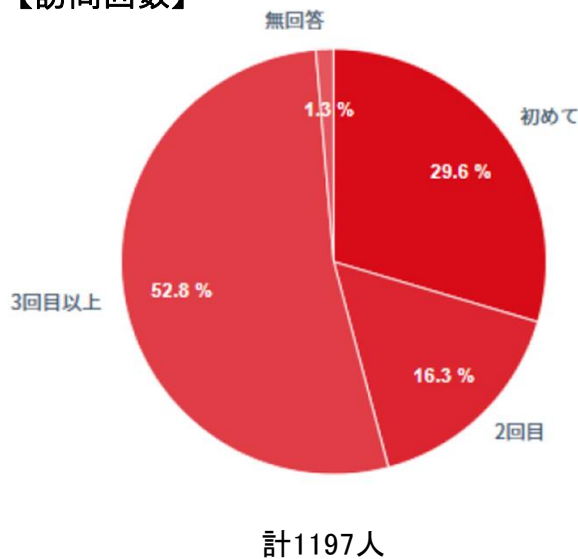
出典：明日香村調べ

# 観光【観光客の特徴】

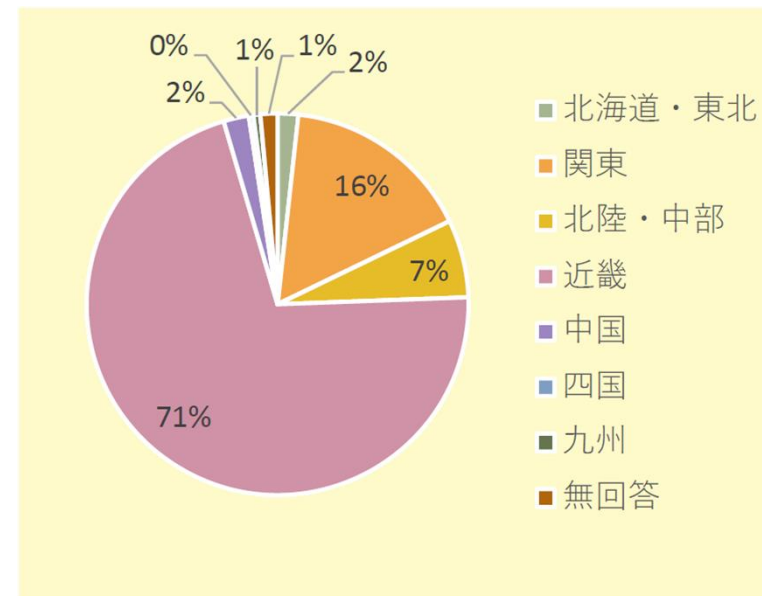
## 明日香村の観光客の特徴

- ・ 令和4年から令和5年にかけての傾向は、訪問回数は、初めて及び2回目の合計が半数程度に対し、3回目以上が半数程度と複数回訪れる者がいることが確認できる。
- ・ 居住地は、近畿圏からの観光客が7割を占め、それ以外からの国内観光客は全体の3割とあまり多くない。
- ・ 年齢構成は60代以上が約48%を占める。年齢別に性別をみると、20-60代が女性が多いのに対し、70代以降は男性が半数以上を占めている。

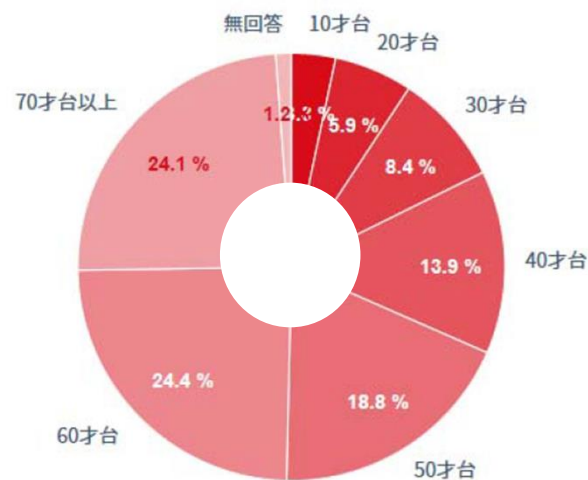
【訪問回数】



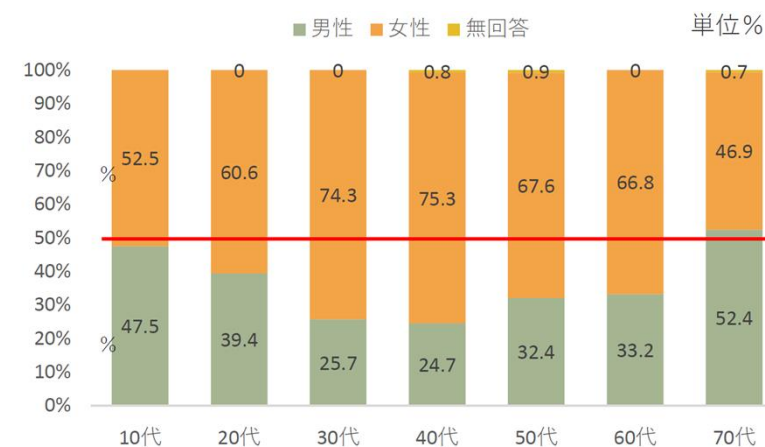
【居住地】



【年齢構成】



【年齢別の男女比】

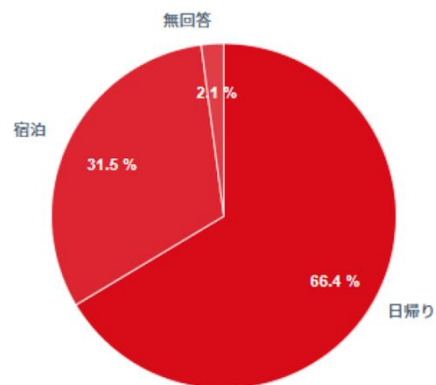


調査名	「観光実態調査 報告」
調査地域	飛鳥駅前
調査対象者	村内の観光地3地点を訪れた観光客 回答者数:1197
調査期間	令和4年6月1日 令和5年3月17日
調査方法	-

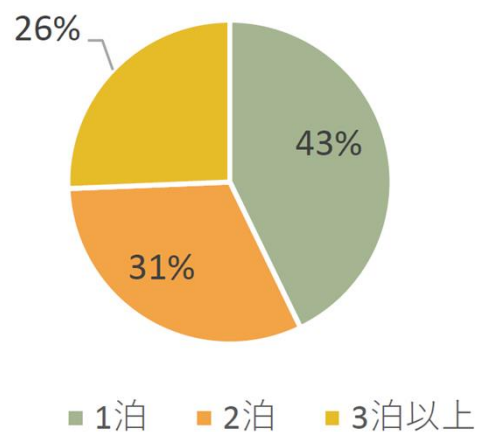
# 観光【観光客の特徴：滞在時間、日数】

- ・観光客の滞在日数は、日帰りが多く、宿泊者は全体の3割程度。宿泊者の内訳は、1泊が4割、2泊～3泊が6割程度。また、宿泊場所のうち、明日香村内は1割程度と非常に低い。
- ・明日香村内での滞在時間は3時間～半日が最も多く（約4割）、次いで半日～1日（約3割）が続く。

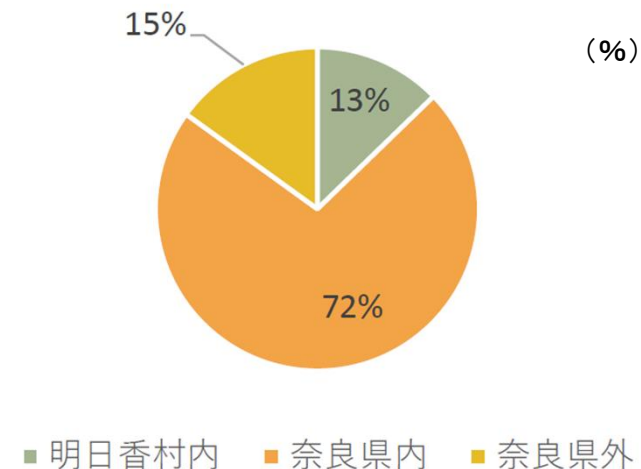
【滞在日数】



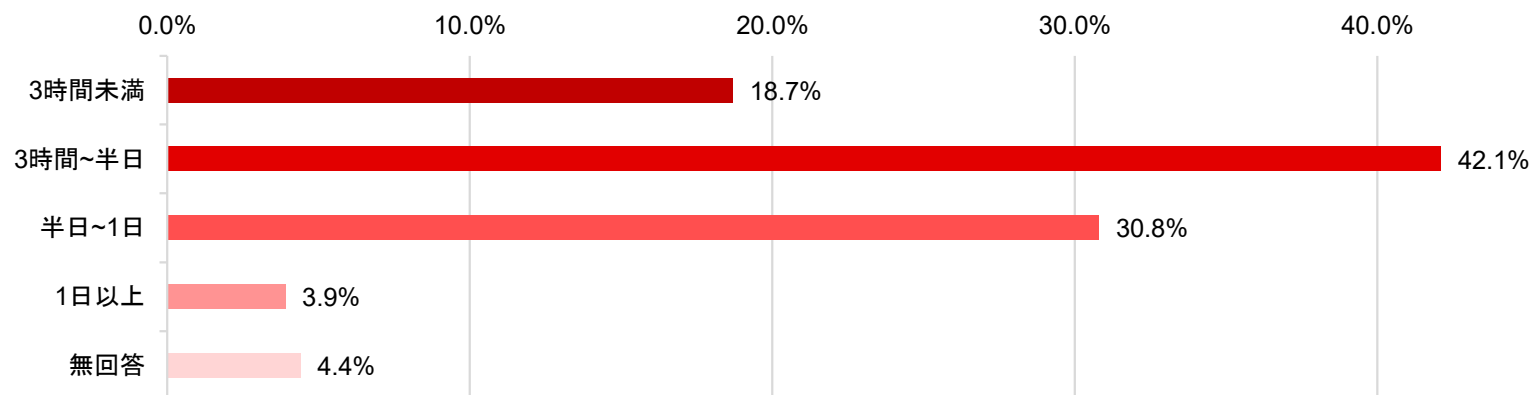
【宿泊数】



【宿泊場所】



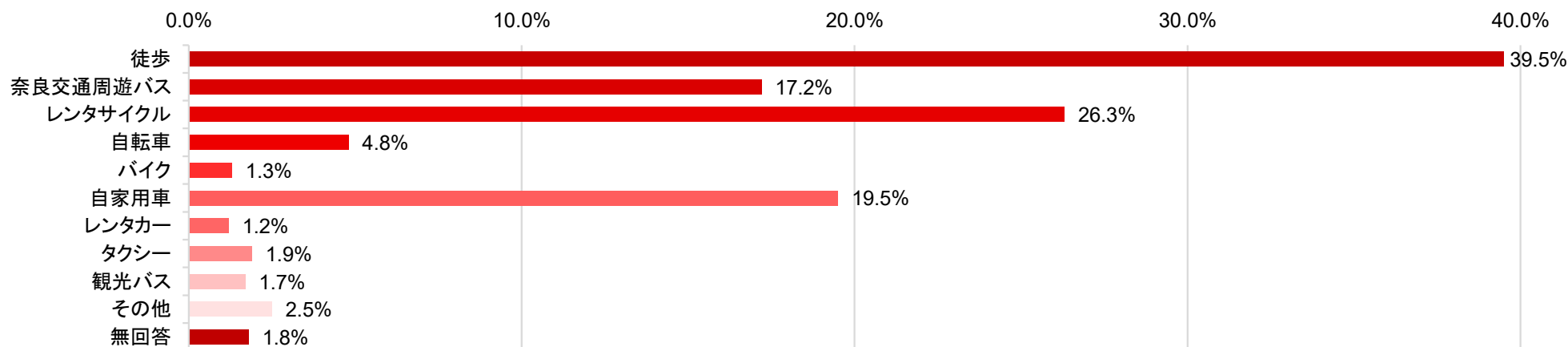
【滞在時間】



# 観光【観光客の特徴：移動手段】

- ・ 村内の移動手段としては、徒歩が最も多く、次いでレンタサイクル、自家用車と続く。
- ・ 年齢別にみると、20～50代はレンタサイクル、それ以外は徒歩が最多。
- ・ 交通手段別滞在時間から、自家用車利用者は滞在時間が短め（3時間未満が4割） レンタサイクル、周遊バス、徒歩は3時間～、半日～1日の割合が高い。

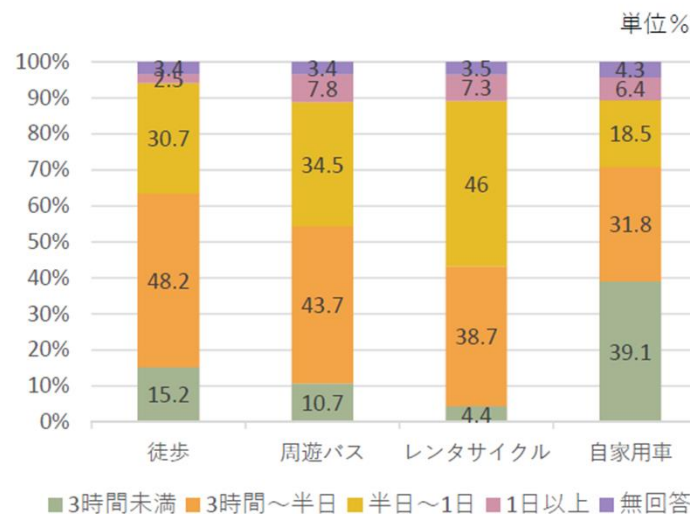
## 【移動手段】



## 【年齢別移動手段】



## 【交通手段別滞在時間】

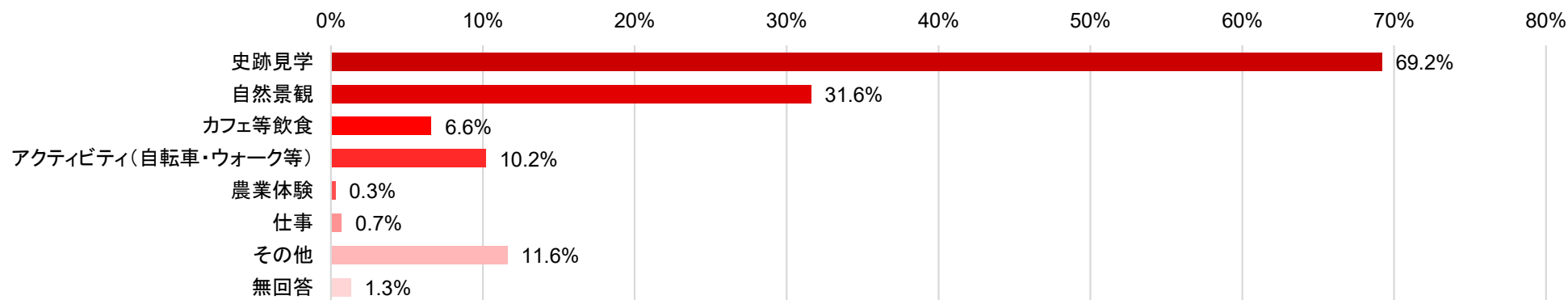




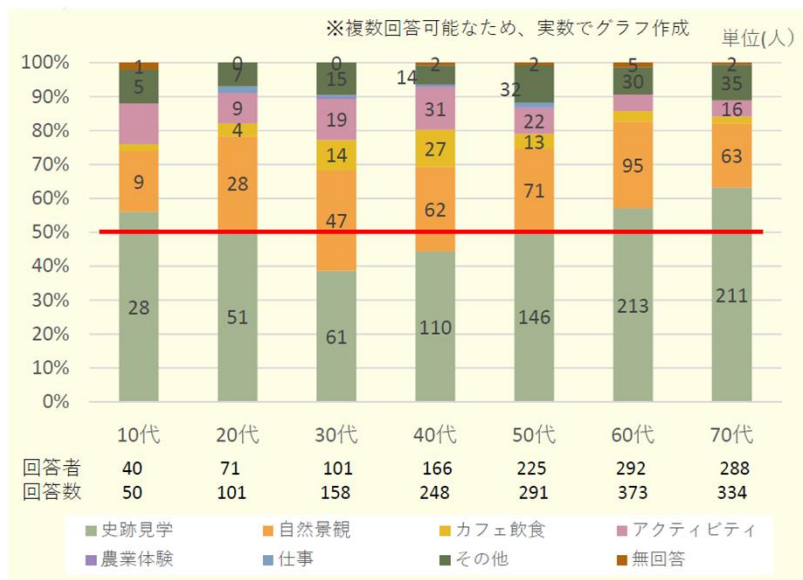
# 観光【観光客の特徴：訪問目的、消費額】

- ・明日香村への訪問目的は、史跡見学が7割と最多だが、年齢別にみると、30～40代は史跡見学は5割未満で、自然景観、カフェ飲食、アクティビティ等の割合が高い。
- ・村内での1人当たりの平均観光消費額は、3,000円以内が全体の5割程度。5,000円以内が全体の8割程度を占める。

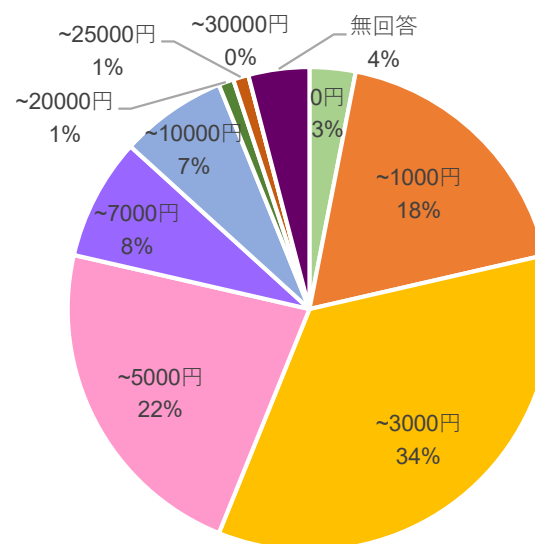
## 【訪問目的】



## 【年齢別主な目的】



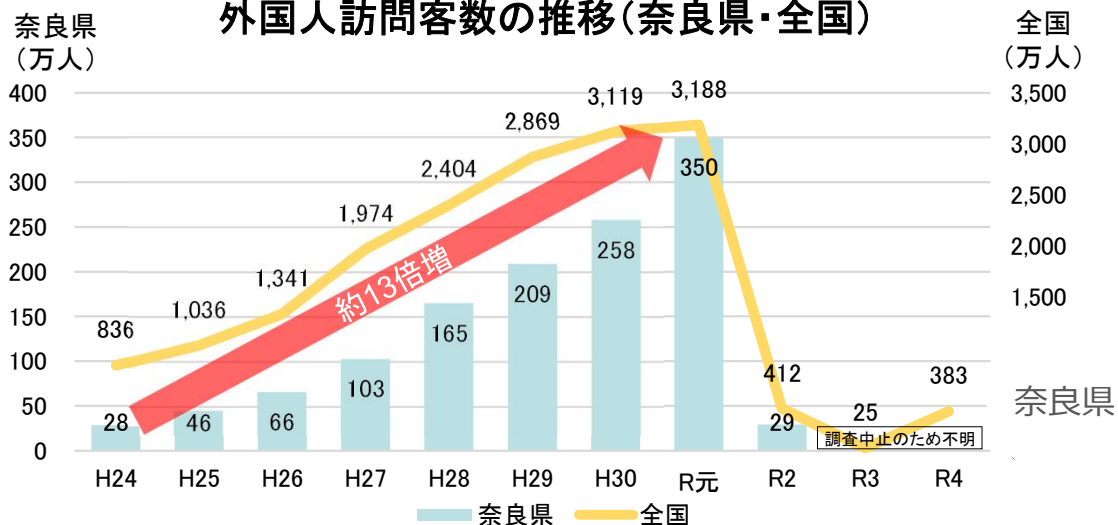
## 【消費額】



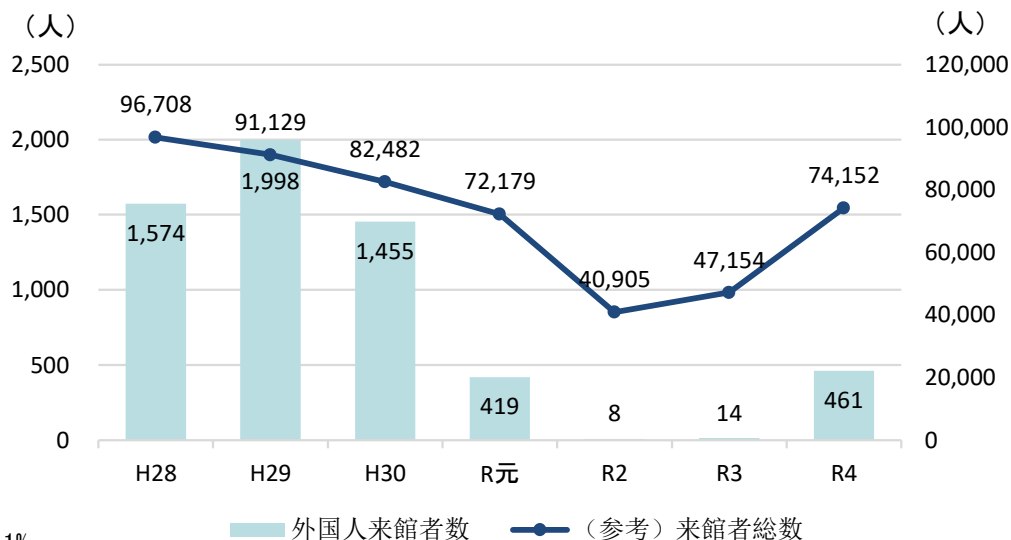
# 観光【外国人観光客の状況】

- ・令和元年まで、奈良県は全国的に見ても外国人訪問客数が大きく増加（平成24年→令和元年：約13倍増）。今後、コロナの影響からのいかに回復できるかが鍵となる。令和2年の調査からは、奈良県への訪問は中国人の割合が多い。
- ・明日香村の高松塚壁画館では、コロナ前の状況に戻つつある。国別にみると韓国からの訪問が77%を占めている。

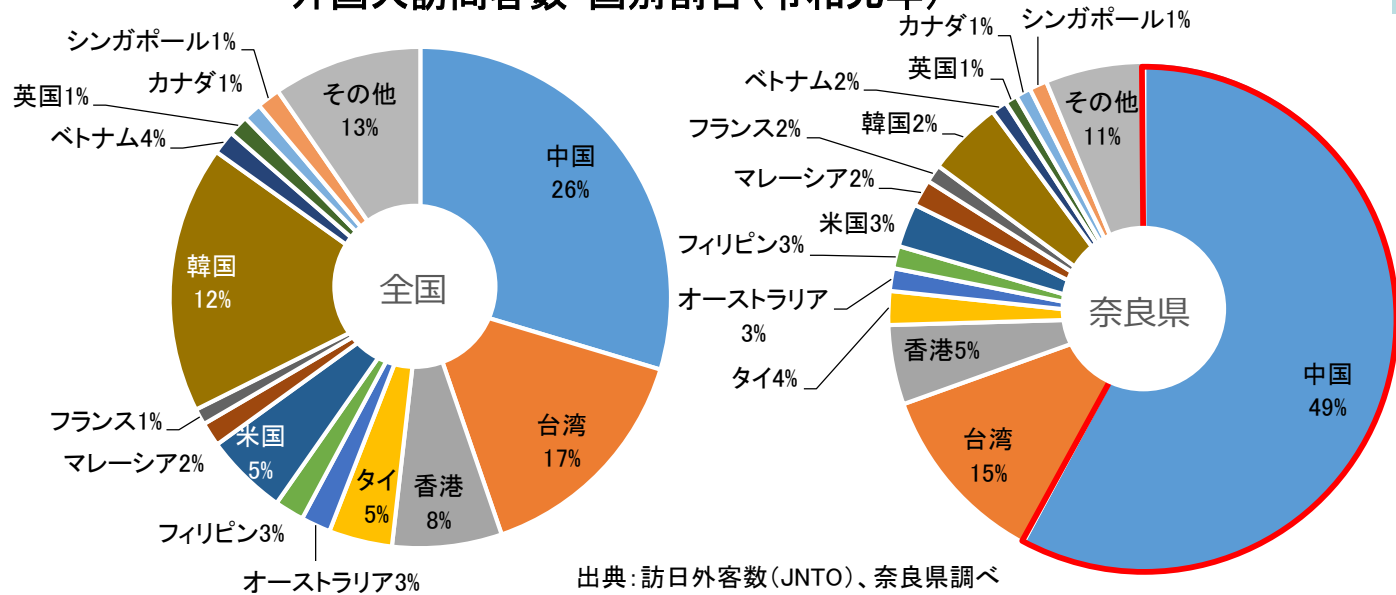
外国人訪問客数の推移(奈良県・全国)



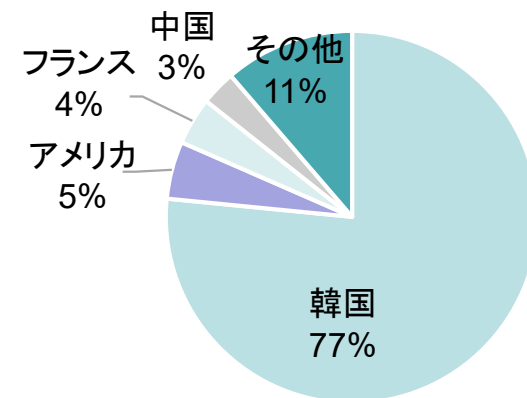
高松塚壁画館における外国人来館者数



外国人訪問客数・国別割合(令和元年)



外国人来館者の割合(令和4年)



出典: 訪日外客数(JNTO)、奈良県調べ

出典: 明日香村調べ

# その他

## (1) 明日香村における観光について

### ① 村内宿泊施設の状況(令和4年度)

宿泊施設数・・・民泊 31軒、民宿 7軒、その他宿泊施設 9軒  
計 47軒

客室数室・・・70室

↳ 民泊については1軒を1室として計算

客室単価・・・約7,000円～約40,000円

↳ 1泊1人あたり夕食・朝食付の料金

### ② インバウンドの旅行客数及び宿泊エリア(令和4年度)

・主な観光施設による外国人観光客の入場者数

石舞台古墳 333人 / 170,697人、高松塚古墳壁画 461人 / 74,152人

※新型コロナウイルス感染症の流行前(H30年度)

石舞台古墳 390人 / 202,903人、高松塚古墳壁画 1,455人 / 82,482人

・外国人観光客の宿泊人数及び宿泊エリア 229人 / 5,785人

古墳ゾーン(飛鳥駅周辺～役場周辺) 30人

歴史ゾーン(飛鳥宮跡周辺～大官大寺跡周辺) 86人

自然ゾーン(稲淵、栢森などの奥明日香) 0人

民泊・民宿の一部 113人

↳ 大和ニューツーリズム及び飛鳥観光協会で行きまとめているため、ゾーン分け不可

※新型コロナウイルス感染症の流行前(平成30年度) 2,616人 / 17,747人

古墳ゾーン(飛鳥駅周辺～役場周辺) 446人

歴史ゾーン(飛鳥宮跡周辺～大官大寺跡周辺) 25人

自然ゾーン(稲淵、栢森などの奥明日香) 101人

民泊・民宿の一部 2,044人



## (2) 第5次整備計画 柱5「村民が定住できる生活環境基盤の整備」について

### ① 令和2年から現在までの村内移住者の動向

・転入者数〈内訳：上位年代順〉

R2 139人 20代：36人（約26%）、10代以下：28人（約20%）、30代：26人（約19%）

R3 112人 30代：26人（約23%）、20代：25人（約22%）、40代：17人（約15%）

R4 110人 10代以下：25人（約23%）、30代：23人（約21%）、20代：21人（約19%）

### ② 移住者の家族形態

・転入世帯の形態別割合

R2 86世帯 新規世帯（2人以上）25世帯（約29%）

新規世帯（単身） 25世帯（約29%）

既存世帯への転入 36世帯（約42%）

R3 76世帯 新規世帯（2人以上）23世帯（約30%）

新規世帯（単身） 31世帯（約41%）

既存世帯への転入 36世帯（約29%）

R4 72世帯 新規世帯（2人以上）16世帯（約22%）

新規世帯（単身） 29世帯（約40%）

既存世帯への転入 27世帯（約38%）

・新規世帯（2人以上）における子育て世帯の割合

R2 18世帯 / 25世帯（約72%）

R3 13世帯 / 23世帯（約57%）

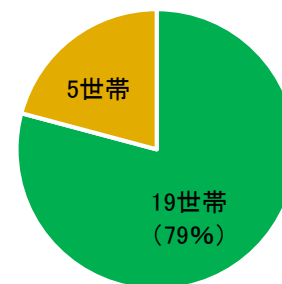
R4 14世帯 / 16世帯（約88%）

### 《参考》「檜前いおり野」の住宅地について

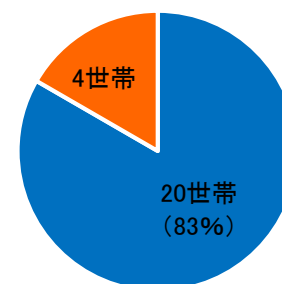
（平成30年度より入居が開始、令和2年度に全戸入居）

住宅用地 24世帯の内訳（令和2年度）

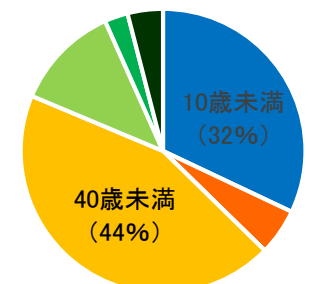
転入前居住地について



子育て世帯について



年代別人口（全75人）



■ 10歳未満 ■ 20歳未満 ■ 30歳未満  
■ 40歳未満 ■ 50歳未満 ■ 60歳未満  
■ 60歳以上

村外からの転入者が約8割であり、子育て世帯が約8割となっており、移住者の中心は30代の子育て世代である。